

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年7月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

夏秋ピーマン部会の巡回現地検討会



7月7日、雨除け6ほ場、露地7ほ場の現地巡回を行い、営農アドバイザー、JA四万十、普及所が指導・助言を行いました。今年は5月の台風や長雨で非常に管理の難しい年ですが、雨除け栽培は前年を上回る出荷量となっており、病害虫の予防も徹底されているなど、適切に管理されていました。

普及所からは病害虫の見分け方を指導したうえで土壌分析を実施し、今後の管理につなげました。

初心者向け露地作物栽培説明会



露地作物の生産を振興しているJA高知はた管内では、同JA営農改善協議会が主催し、7月5日に大正地区、7月9日に十和地区で秋冬作付品目の初心者向け栽培説明会を開催しました。

当日JAと普及所は、参加者5名に対して、大正・十和の北幡地区で推奨している「なばな・茎ブロッコリー、葉草のミシマサイコ・セネガ」の栽培方法と経営収支について説明しました。

参加者からは茎ブロッコリーやセネガへの質問があり、栽培へ関心が示されました。今後、栽培希望者には個別に指導し作付を支援します。

四万十の栗再生プロジェクト協議会及び現地研修会



7月7日、栗の現地研修会が四万十町十和で開催され、約35名の生産者が参加しました。

研修会では、普及指導協力員を講師に地域ブランドの特選栗の栽培方法について講習しました。また、会場を移しての栗再生プロジェクト協議会では、栗産地の再生に向けた今後の取り組みを話し合い、普及所から提案した各産地の指導者で構成する栗技術チーム会の設立が承認されました。

今後は、このチーム会を活用し、産地間の技術交流を図り、生産量の増加を目指します。

J A 四万十厳選 ‘にこまる’ の現地検討会



7月15日、生産者のほ場でJA四万十厳選 ‘にこまる’ の品質向上に向け現地検討会を開催し、生産者7名が参加しました。

始めに各生産者のほ場を回り、溝切り、生育状況を確認した後、普及所から穂肥、稲こうじ対策について指導し、穂肥、稲こうじ防除のポイントとなる幼穂の確認方法を実演しました。

生産者からは「幼穂の見方が難しい」などの声が聞かれました。普及所は、今後も全国ブランド化に向けJA四万十厳選 ‘にこまる’ の品質向上を支援していきます。

床鍋農事組合法人理事会



7月9日、集落営農を法人化した床鍋農事組合法人の理事会が開催されました。

今後の事業展開とそれに伴う資本装備についての検討が行われ、普及所から、補助事業・制度についての情報提供及び助言を行いました。その結果、水稻作に必要な播種機等の補助事業の申請等が決定しました。

普及所は、今後も、法人運営等について支援を行っていきます。